

第23回 三番瀬再生会議の開催結果概要

1 日 時 平成19年12月27日(木)午後6時~午後9時

2 場 所 浦安市民プラザWave101

3 出席者数 委員19名 オブザーバー6名

4 参加人数 80名

5 結果概要

(1) 開 会

(2) 議 事

前回(第22回)会議において議事が終了しなかったことから、引き続き、「千葉県三番瀬再生実施計画(案)について」の審議が行われた。

その概要は以下のとおり

ア 議題1 第21回から第22回までの再生会議の結果について

資料1に基づき、大西会長から概要が報告された。

イ 議題2 平成20年度千葉県三番瀬再生実施計画(案)について

資料3-1~6により意見交換が行われた。

主な意見等は次のとおり。

- ・三番瀬からのメッセージという趣旨の囲み記事を、有力一般紙に掲載することは予算がかかって大変だが、自ら積極的に三番瀬に行かない人達に、何らかの手段で三番瀬に関する情報を伝えられないか。市町村広報を見る人も多いので、市に申し込んで具体的に進めて欲しい。
- ・記者クラブを通じた記事の投げ込みなど1年でどのくらい取り上げられたのか。
- ・【県の回答】最近の例では、知事会見等で三番瀬再生国際フォーラムのPRをしたり、三番瀬再生会議についても開催ごとに記者投げ込みや県民だより等でPRしている。今後はさらに広く一般の方々の目に触れるように、市の広報への掲載など綿密にやっていきたい。

- ・最近、県民の方と直接対話するような場をほとんどつくっていないのではないかと
思う。以前は普段働いている世代にも伝わるように休日に場を設けて、各市に出か
けて行って説明するチャンスを作っていた。県民に直接聞くことでいいアイデアが
生まれたり、口コミが広がっていったりするので、今後は、事業計画などできたと
きに4市へ行って、県民への説明会を開いていただきたい。
- ・三番瀬の再生については、県で進めている生物多様性の計画の流れとリンクさせて
検討していただきたい。また、県の関係部局でも日常の広報の中で三番瀬を扱って
いただきたい。
- ・猫実川河口域における生物多様性の実態が把握されていないのに、砂の投入などの
支援を進めていくのは問題だと思う。評価委員会の事前了解を得て進めるという手
順を踏んでいただきたい。
- ・船橋市は、工事が具体化している他市と比較して市民の関心が濃いとはいえない。
三番瀬の再生状況や、千産千消、地球温暖化による三番瀬の変化などの視点も含め、
市町村広報の積極的な利用を希望する。
- ・やはり新聞に書いてもらえるようなことをやらないとだめだと思う。三番瀬パスポ
ートやキッズ事業など楽しいソフト面の事業が実現に移される気配がない。一般の
人の関心が三番瀬に向いてくるよう検討していただきたい。
- ・【県の回答】県政10大ニュースで三番瀬事業計画の策定が7位だった。折に触れて
情報発信をしていることへの評価だと思うが、これからソフト事業を充実していき
たいと考えている。
- ・三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会等での議論について、先に結果を報告する
と出戻りが多くなるので、プロセスから県民とヒアリングをするなど共有していく
仕組みを考えていただきたい。お互いコミュニケーションが取れてくれば、方向性
がはっきりすると思う。
- ・【県の回答】三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会について、昨年度は庁内で検討
した。今年度は、個別の検討委員会ということで、当該委員会を設置し、再生会議
委員に検討いただく場ができたものと考えている。なお、三番瀬再生実現化試験計
画等検討委員会ですべてを決定するというのではなくて、検討した事項を再生会
議に提案し、フィードバックしていくような方法で進めていることを御理解いただ
きたい。
- ・ラムサール条約に関して、県議会の理解が得られない根本的な理由は何か。

- ・ラムサール条約を推進することによって三番瀬への認識が広まってくる。再生会議として条約への登録を「求めていく」決議をするぐらいの方向性が大事だと思う。
- ・条例づくりやラムサール条約への登録の必要性を切に感じている。船橋漁協としてもラムサールに登録した漁師の実際の話を書くことなどを早急にする必要があると感じている。
- ・なぜ三番瀬を保全していかなければならないのかを、地球温暖化問題や食糧問題などと併せて骨太に前面に出していかないと、一般の人は関心を持たないのではないかと感じている。
- ・市川市の漁協も、漁場環境の改善が進むのであれば、ラムサールへの理解が得られるはず。同意が得られないのは漁場の改善が進まないからだと認識している。
- ・ラムサール条約の効果は大きい。もしかしたら、環境学習施設の国の補助金も得られるかもしれないし、一般の人へのアピールもかなり違ってくる。
- ・【県の回答】漁業者が反対しているから進まないということではなくて、船橋以外の漁協では漁業補償問題の調停が始まったばかりであるということ、三番瀬漁場再生の問題も検討中ということで、もう少し先が見えてくる状況にならないと真剣に検討できない、もう少し時間が欲しいというニュアンスと聞いている。鳥が増えることによる海苔や魚への悪影響の懸念も聞いている。
また、ラムサール条約は地域の幅広い方々の総意の下で登録される必要があることから、日常的に関わりの強い漁業者から先に意見を伺う機会を設けているものである。
- ・三番瀬がなくなれば、漁業は消滅し、鳥もいなくなる。ラムサールは今の状況からすると緊急のことと認識している。船橋の漁場だけでもラムサール登録ができればいつでもやりたいと考えている。
- ・今まで一つ一つのところを手堅く押えていくということが欠けていたので、懸案をきちんとクリアしたり、昼間に現場を見に行ってみる等お互いにやり方を変えて、ダイナミックに着実に進めていく必要がある。「一緒に作っていく」という仕組みを検討してもらえれば、委員ももっといろいろできるし、やりがいもあると思う。
- ・再生会議は、事務局対委員という図式ではなく、同じベースに立って、同じような理解をしていかなければ、お互いに知恵を出し合うことはできない。ラムサールについては、具体的に何が問題で今後どうするのか、事務局として整理していただきたい。

- ・予算がついていないソフト事業が進まないという問題点があるので、企画調整課で事業ごとに担当を決めて着実に進めていっていただきたい。
- ・今年度、環境学習施設等検討委員会が開かれてなく、どのようにしていくのかが課題だと思うが県としていかがか。
- ・【県の回答】環境学習基本方針の策定がずれ込んでしまったため、年明け以降に吉田委員長と相談して開催時期を決めていきたい。

会長まとめ（議題2）

- ・広報について、県民に関心を持ってもらい、支持をってもらうという流れをうまく方法でつくっていくことは大事だと思う。今は、事業も仕込み時期であることから活動が地味にならざるを得ないが、それぞれの時期での有効な広報、情報発信の仕方を検討していただきたい。何人集まったとか何行記事に載ったとかそういう尺度から有効な方法を開発していくこともいいのではないかと思う。また、今回、いろいろ意見が出たのでそうしたことを強化していくことになる。
- ・三番瀬再生実現化試験計画等検討委員会については、県で案を固めてから議論が始まると、根本的な議論にならないので議論のあり方を工夫していただきたい。まちづくりの進め方については、県と市が合意して再生会議と対峙するという構図になってはまずいと思うので、そうならないようにフランクに意見交換できるようにしてほしい。
- ・円卓案については市民の意向を十分反映したのかどうか反省すべき点もあるので、我々としてもそこを注意しながら議論していく必要がある。
- ・平成20年度千葉県三番瀬再生実施計画(案)への意見書については、留意すべき事項に、広報の充実、情報発信の充実という趣旨を加える。また、「県が広域的な観点から調整を図るべき事業については、地元市や国との連携、あるいは県民や関係者との連携をさらに密にし」と補足する。ラムサールと条例については、去年の意見書と同じ表現を再掲する。他、詳細の文案はお任せいただくこととしたい。

ウ 議題3 報告事項について

- ・台風9号による江戸川放水路からの出水について、国土交通省から出水の概要説明があった。
- ・三番瀬再生実現化推進事業及び市川市塩浜護岸改修事業の進捗状況について、浦安市日の出地区の状況等について、それぞれ事務局から説明があった。

エ 議題4 その他

- ・浦安市の都市計画に関して、市民、県民、行政、関係機関が協働で知恵を出し合っ
て、三番瀬を活かしたまちづくりを協議する場を早急に設置していただきたい。

会長まとめ(その他)

- ・次年度の再生会議の進め方については、再生会議の中に個別のテーマごとに検討グ
ループをつくって、実質的に議論が進化していく方法を考えていきたい。事務局と
詰めて、すべて一斉にスタートさせるというわけにはいかないかもしれないが、必
要度の高いものからそうした仕組みをつくっていきたい。

(3)閉会

以上